

# 医療生協・支部の魅力を もっと地域に伝えよう

医療生協かながわ  
月間 後ニュース No.3

2017/3/2 発行

## 南スーダン支援 おおよそ 36,000 円分 が寄せられました



2011年南北分離以降の スーダン と 南スーダン



2011年に独立した「世界で一番新しい国」、南スーダン。独立の喜びもつかの間、2013年には大統領派と副大統領派とによる内戦が勃発、何万人もの命が奪われ、200万もの人々が避難を余儀なくされました。交渉の末、和平合意が結ばれ2016年4月には暫定統一政府が発足し、戦乱は収まったかのように見えました。しかし首都ジュバで両派の軍が再び衝突。

ジュバからウガンダ国境にかけての広い地域に戦闘が拡散、村への襲撃、住民の虐殺が相次いでいます。生き延びた人々は少しでも安全な場所を求めて学校や教会へ、あるいは隣国へと逃れています。

《日本国際ボランティアセンターHPより》

自衛隊派遣、安保法制を運用しての「貢献」ではなく、非軍事かつ日本の独自性を生かした和平に向けた平和貢献を

日本は南スーダンの独立以前から南スーダンに民生支援を行っており、現地の住民の日本に対する信頼は高い。またこの地域において植民地支配の歴史から無縁であることも相まって日本は欧米とは違った親近感を抱かれています。しかし一度武力介入を行えばこの信頼と親近感は一気に敵対感情に変容する危険がある。すでに政府のみならず住民のPKOに対する反感が存在していることを考えると、PKOによる住民保護の任務は極度に困難が状態に直面している。お試しで駆け付け警護をするというような事態ではもはやなく、日本は全く別の角度から平和貢献をすべきである。

《JVCも参加するNGO非戦ネット声明より》



日本国際ボランティアセンター（JVC）からの要請にこたえて、2016年12月より、書き損じ、未使用はがき等による協力を呼びかけました。

2017年2月末までにハガキ673枚、切手3,117円分、現金で3,300円、合計でおおよそ36,000円分が寄せられましたので、ご報告いたします。

日本国際ボランティアセンターは、南スーダン・首都ジュバで難民、避難民に食料や生活物資を送る緊急支援を実施しています。

中田診療所では、受付カウンターにハガキをお寄せくださいますのボックスを設置しました。

